

団体名	NPO法人WACわかやま		活動タイトル	子ども・子育て支援連携発展事業				
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景					
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>近年、子育て中の親の生きづらさが指摘されるが、それらをサポートし、安心して優しい気持ちで子育てできる母親支援が直に子ども支援につながる。幼い時から親と共に関わった人、コミュニティが子どもを見守り続けるしくみが求められている。子どもの健全育成には、「子どもは地域の宝物」という価値創造と共に、子どもの権利を尊重し、子どもたちが自分の意志を大人に伝えられるような関係づくり、地域コミュニティの存在が不可欠である。多世代の交流により地域の歴史や文化を知りながら子どもたちが心身ともに育まれる地域環境へと発展させたい。</p>		<p>三世代交流クリスマス会</p>	 <p>いろいろな世代の方たちが集り、交流がもてるクリスマス会にする。制作をしたり、演奏会をしたり親子体操を行い、最後にはサンタクロースからのプレゼントを配り交流を図る。</p>				
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>WACわかやまの「WAC」は、Wonderful Aging Clubの頭文字をとったもので、「素敵に年を重ねよう」という意味がある。高齢者疑似体験や障害者の旅サポート、多世代交流事業などに取り組んでいる。個人を尊重し、どんな年代でもどんな環境でも、その人がその人らしく生きられる社会づくりに寄与することが団体ミッションとしてある。子育て支援活動としては、親が社会から孤立せず、身近に相談相手のいる安心して子育てできる環境づくりに寄与することをミッションとして活動している。</p>							
<p>● 団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成講座を開催し、基礎的なスキルを身につける。活動内容の情報発信や情報収集など情報リテラシースキルの高い人材を育て、活動体験の蓄積により、市民活動人材として育成していく。 ● 事業で活用するスペース、食材、また物品等について、地域の理解ある協賛企業からの支援があるネットワークが構築されることが理想である。また、活動資金については、会費で全体経費の1/3、企業、団体等からの寄付金1/3、事業収入として1/3の経費がまかなえることが理想である。 ● 活動経験の長いスタッフの暗黙知を形式知に変えて、スキルを継承していく。様々な支援事業に関わる中で、次世代を担うスタッフのスキル向上を同時に図るため、団体の事業運営・人材育成マニュアルが順次、スタッフ自らにより継承されることが理想である。 							
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)					
<p>イブニングサロンは、週3回、2時間の枠ぐみで活動を行った。スタッフはローテーションで担当し、利用者は、仕事かえりの保護者も含め少しずつ増えていった。</p> <p>子ども食堂は、週2回、イブニングサロンと並行して食事の提供を行った。材料費300円を徴収して運営した。夕方の広場活動は、WACわかやまとしてやってみよう事業のひとつだったこともあり、試験的な取り組みだったが、人材育成講座で学んだ新しいスタッフが実践経験を積む機会を提供でき、保護者との会話や子どもたちと接する中で、モチベーションがあがっていった。</p> <p>人材育成講座は、一般社団法人女性労働協会の『育児サポート4』を基準テキストとして、その内容に即した講座を外部講師を招いて開催した。延べ参加人数は15人だった。スタッフとして活動に参加することになったのは、5人だった。</p> <p>三世代交流クリスマスは、12月3日に開催したが、コロナ禍の影響もあり参加者が少なく残念だった。参加者は少なかったもののサンタクロースに扮したスタッフの登場に子どもたちは喜び、楽しい雰囲気の中で、交流を深めた。</p>			<p>三世代交流クリスマスと人材育成講座については、当初の目標の8割程度の達成状況であったと考える。三世代交流クリスマスは参加者こそ見込みよりは少なかったものの内容は充実しており、狙いどおりの交流を深めることができた。人材育成講座については、講座内容も充実しており、参加の3分の1が、ボランティアスタッフとして活動に参加する仲間となり、イブニングサロンに関わることになった。</p> <p>イブニングサロンと子ども食堂については、目標とされる中身の充実について、6割程度の達成状況だったと考える。開催日数や時間については、当初の予定どおり実施できたが、参加者が固定化し、広がりを作っていけなかったことは残念だった。</p> <p>子ども食堂についても、地域の人を巻き込んでお手伝いしてもらったり、食材提供を受けるなどの目標があったが、そこまでは至らず、小さくまとまってしまった。</p>			<p>イブニングサロン(食事前風景)</p> <p>食事までの間は皆で楽しく遊んだり、保護者同士もリラックスして話をしながら過ごせるようにし、食事につなげられるようにしている。</p>		
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
<ol style="list-style-type: none"> 1. チーフを中心に問題意識を高め、スタッフ間の情報共有や意思疎通の大切さを学んだ。 2. 広報活動の大切さと地域の人たちとの連携の難しさを学んだ。 3. 夕方の子育ての大変さ、夕食を食べさせる大変さを改めて知ること子どもへの励まし声掛け、環境づくりの大切さを改めて学ぶことができた。 4. 働かされている保護者の方の悩みを直に聞かせてもらい、どのようなことで悩んでいるのかを知り、相談を受けともに相談内容について考えていくことができた。 			<ol style="list-style-type: none"> 1. 当団体だけでなく、他団体と連携して、安心して子育てできる環境づくりをしていく必要がある。今回の事業では、連携づくりまでには至らず、同様の子育て支援活動をしている団体と、情報共有しながら、よりよい社会づくりをめざすためにネットワーク化を進めることが課題である。 2. 地域の人との交流の場を増やすことが喫緊の課題である。当団体が活動している和歌山市高松地区は老人クラブの活動が活発な地域であることから、今後は老人クラブとの交流を進めていきたい。地域の人たちの子育て支援への興味関心を深め、活動に協力してもらえる環境整備が課題である。 			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>保護者が安心して過ごしてもらえる空間づくりと子育て支援環境を良くしたいという仲間を増やすこと</p>	<p>を達成しました。</p>
			■ 受益者の具体的な変化（自由記入）					
			<p>今まで、あまりしゃべらなかった保護者が、少しずつ会話が増え、子どもも他の子どもと遊ぶようになった。</p>					